

Ⅲ 早生広葉樹等の育苗及び植栽技術に係る実証試験

(実施期間：平成29年度～令和3年度 予算区分：県単 担当：池本省吾)

1 目的

近年、里山の放置による竹林拡大や耕作放棄地の増加など、中山間地域における土地利用の低下が進行している中、植栽から15～30年程度で収穫できる「早生樹」は、里山・耕作放棄地の有効利用に繋がる可能性がある。そこで、早生樹を利用した回転が速い短伐期林業の技術開発及び育林技術の体系化を図る。

2 実施概要

(1) 方法

早生樹を植林する際の基礎資料とするため、H29年度に設けた県内5カ所のセンダン植栽試験地及びR元年度に設けた県内3カ所のコウヨウザン植栽試験地について、植栽木の成長及び雪害、病虫害等の発生状況を調査した。

(2) 結果

センダン植栽木の3成長期後の苗高の平均は、試験地により大きくばらつき(80.2cm～355.7cm)、標高480mの日南試験地では雪害(幹折れ)や寒害(梢端部の枯れ下がり)、標高60mの河原試験地ではイノシシ等の獣害による成長不良がみられた(図1)。

コウヨウザンの植栽当年の活着率は99.8～100%、苗高の平均は88cm～96cmで、順調な生育がみられた(図2)。また、全ての試験地で苗木の根元から萌芽が発生する現象がみられ(写真、図3)、萌芽が苗木の成長へ及ぼす影響について今後調査する予定である。

3 結果の図表と研究の様子

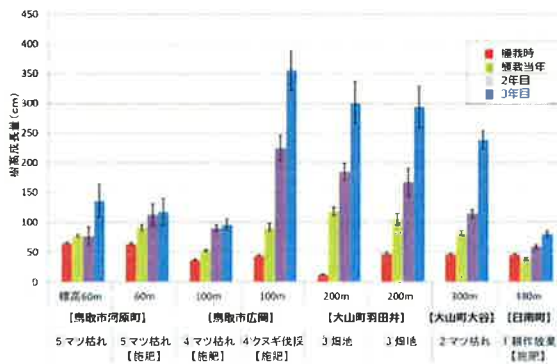


図1 センダン植栽試験地毎の成長経過

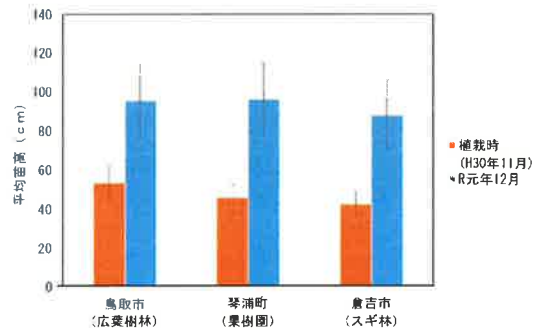


図2 コウヨウザン植栽試験地毎の成長



写真 コウヨウザン苗木の根元から発生した萌芽

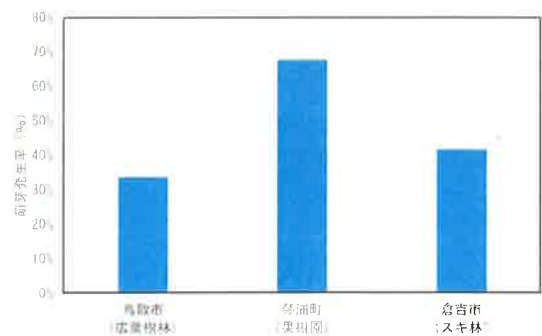


図3 コウヨウザン苗木の試験地毎の萌芽発生率